

魚沼市子ども計画（案）に対する意見の内容と市の考え方

◆意見の反映状況

I 反映するもの II 一部反映するもの III すでに反映しているもの IV 今後の検討課題とするもの V 記述を変更しないもの

No.	箇所	意見の概要	市の考え方	反映状況
1	P59-60 子どもの居場所づくりについて	<p>現代の生活実態に即した新たな「居場所」の在り方が求められていると感じています。P60の主な事業としての4つの取組が相互に連携・融合した形で展開されることで、より効果的な居場所づくりになるのではないかと感じました。</p> <p>近隣市町村では複合的な機能をもつ子どもの居場所が存在しています。魚沼市においても、市内の空洞化という課題と結び付け、本町商店街や統廃合により未活用となった公共施設、既存の公民館・体育館を活用し、子ども・若者・保護者がゆるやかにつながれる包摂的な拠点としてリノベーションしていくことは、居場所づくりとまちづくりを同時に進める有効な方策になると考えます。</p>	<p>ご指摘のとおり、社会環境や生活環境の変化により、現代の生活実態や子どもの個性に応じた「居場所づくり」が求められており、多様な「居場所」の形態の中からそれぞれの子どもたちに最適な「居場所」を選んでもらう環境が理想的だと考えています。</p> <p>生涯学習センターここいらや魚沼市にぎわい創造拠点こいでテラスなど、地域課題の解決と結び付け、庁内で相互に連携・協力して推進していきます。</p>	V
2	P56-58 教育環境の充実/魅力ある学校づくり・学びの多様化について	<p>不登校の増加や学びづらさを抱える子どもの存在は、個々の適応の問題としてではなく、学校という学びの場そのものが、多様な子どもたちの発達段階や関心、学び方を十分に包摂できていない可能性を示しているように思います。その意味で「魅力ある学校づくり」は、学校の役割や学びの構造そのものを問い直す取組として捉える必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>具体的には、地域の実情や子どもたちの実態に応じて、主体性・自立性・創造性を育むカリキュラムを学校ごとに構想し、実践していく余地を広げていくことが重要だと考えます。</p> <p>国が進める「学びの多様化学校」の考え方を踏まえ、学びの多様なニーズに応える新たな学校や学習の場の設置について、検討を進めていくことは意義があるのではないのでしょうか。新しい学びの選択肢を地域の中につくっていくことが、子どもや保護者にとっての安心感や希望につながると考えます。</p> <p>魅力ある学校づくりとは、一人一人の違いを前提として、その子なりの成長や学びを支えられる環境を整えていくことだと考えます。本計画においても、学びの在り方そのものを転換していく姿勢が、より明確に示されることを期待しています。</p>	<p>本計画においては、全ての子どもが誰一人取り残されることなく、将来への希望を持って自分らしく健やかに成長することを目指しており、不登校の子どもへの支援については、学校だけでなく、適応指導教室やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの相談支援など複合的な支援体制を進めています。</p> <p>子ども計画において、学びの在り方の具体的な記述はしませんが、教育環境の取組に関しては教育大綱に基づき、教育委員会において検討し、取り組んでまいります。</p> <p>いただいたご意見については、今後事業を計画する中で参考とさせていただきます。</p>	V
3	若者流出と大人のウェルビーイングについて	<p>若者が魚沼市を離れていく背景には、この地域で「どのように大人として生き、働き、暮らしていけるのか」という将来像が、十分に描けていないことがあるのではないかと感じています。魚沼市で暮らす大人たちが、どのような価値観をもち、どのような働き方・生き方を選び、どのようなウェルビーイングを実感しているのか、子ども・若者にとって見えにくくなっていること自体が、将来の定住意識や地域への期待感に影響しているように思います。</p> <p>子ども施策や教育施策の充実と同時に、この地域で暮らす大人自身が、安心して挑戦し、働き、生活できる環境をどのようにつくっていくのかという視点を、計画全体の根底に据えていく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>企業誘致や産業振興といった取組を、単なる経済施策としてではなく、子ども・若者にとっての「将来のロールモデル」や「このまちで生きていくイメージ」を育む取組として、子ども計画と横断的に結び付けていく視点が、今後一層重要になると考えます。</p>	<p>ご指摘のとおり、大人の価値観や幸福度が家庭内の子どもや若者に及ぼす影響は少なくないと感じています。</p> <p>子ども計画においては、子どもたちの将来にわたる幸福度を高める取組を課題ととらえています。アンケート調査では、親から大切にされていると感じている人ほど自分のことを好きだと思う割合が高く、幸福度も高い結果でした。このことから、基本方針5を中心に家庭への支援を推進することで、結果として家庭全体のウェルビーイングの向上につながることを期待しています。</p> <p>なお、子どもたちが魚沼市で成長し、生きていくイメージを膨らませる取組としては、地域への愛着を育む総合学習学校支援事業や地域に開かれた学校づくりを進める中で育み、子どもたちと一緒に魚沼市のこれからのを考えていきたいと思っています。</p>	V